

特集 令和3年度に教育委員会が行う主な取組み

未来を見据えた環境整備

新規 ICT活用支援事業(オンライン授業を含む)

令和3年度予算額 1億1,760万円

国が進める「GIGAスクール構想」の一環として、児童生徒1人1台のタブレット端末(通称:GIGAたん)と高速大容量の通信ネットワークの整備が令和3年3月に完了しました。加えて、学校現場のICT化が進む中、「子どもたちを誰一人取り残すことのない」学習環境を作っていくことが重要であることから、児童生徒の学びの保障と教員のICT活用能力の向上を図るため、GIGAスクールサポーターを配置します。今年度は、「ICT活用元年」として、様々な教育活動の場面において活用していきます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校では、「非常時におけるオンライン授業」を実施できるよう準備を進めてきました。現在、新型コロナウイルスの影響により登校できなくなった児童生徒を対象に、希望に応じて、オンライン授業を開始しています。

■授業時間

健康面に配慮し、午前中の時間割のうち2~3時間以内をオンライン授業、午後の時間を含むその他の時間は、補充学習にあてます。

■補充学習

AIドリル(小学校:すららドリル、中学校:Qubena)、読書活動など
※詳細は、お子様の在籍校におたずねください。



学校トイレ整備事業

快適な教育環境を確保するため、和式便器から洋式便器への取替や、より明るいLED照明にするなどの改修を行っています。学校施設や児童生徒の状況に応じて優先順位をつけ、毎年10校程度で計画的に進めます。

この他にも、身体に障害のある児童生徒のためにトイレの洋式化等を行っています。

令和3年度予算額 2億7,000万円



働きがいのある学校づくり

新規 ICTを活用した指導力育成を目指す教員の資質能力向上事業

教育の情報化が急速に進む中、子どもたち一人ひとりの資質・能力を伸ばし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、教員のICTを活用した指導力を伸ばすことが不可欠となっています。

北九州市立教育センターでは、タブレット端末や教育用アプリの操作方法に関する研修を行うとともに、教員用専用サイトで研修動画を配信するなど、教員のICTを活用した指導力の向上を図っています。

令和3年度予算額 200万円



新規 学校における業務改善コンサルティング業務委託事業

教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、学校における業務改善を進めています。

今年度は、民間業務改善コンサルティングを学校現場に導入し、学校外の視点から一層の業務改善を進めます。

令和3年度予算額 500万円



安心な学びの場づくり

新規 SDGs達成のための次世代型教育推進事業

令和3年度予算額 950万円

SDGsの理念に則り、「誰一人取り残さない教育」という考え方のもと、様々な次世代型教育の取組みを進めることで、子どもたちの成長を促すとともに、持続可能な社会づくりの担い手を育み、SDGsの幅広い目標への貢献につなげていきます。

コグトレ～集団と個を意識した子どもへのアプローチ～

「コグトレ」とは、学習面・社会面・身体面の3方面から子どものよりよい学び方にアプローチする認知トレーニングの総称です。

子どもたちは楽しんで「コグトレ」に取り組みながら、自分にあった学び方に気付くことができます。また、教員は、一人ひとりの個性を把握し、より一層子どものよさを引き出す働きかけすることができます。



オンライン英会話

小学校学習指導要領の改訂に伴い、英語を「話す」能力を高めるため、市内2校において、オンライン英会話学習の実証を行います。

実証では、1人1台タブレット端末(通称:GIGAたん)を使用し、外国人講師と児童がマンツーマンでオンライン英会話を行います。



未来へのとびら オンライン授業

欠席が長期継続している中学生を対象に、1年生から3年生合同で行います。

学校で行われている授業内容ではなく、社会的な自立に向かうという目的が達成できるように工夫した学習内容で支援を行います。



経済教育推進事業

経済教育に関する民間プログラムを活用し、学習活動を通して、意思決定能力やリーダーシップなどの力を育成します。

具体的には、グループで帽子屋を経営し、意思決定のシミュレーションを行うなど、様々な場面を設定し、学習を進めます。



時代を切り拓く力の育成

子ども読書活動の推進

令和3年度予算額 3億9,520万円



「北九州市子ども読書活動推進条例」及び「北九州市子ども読書プラン(4ページに掲載)」に基づき、子どもたちが読書に親しみ環境を整え、学校図書館の利用を促進するための様々な取組みを推進します。

小倉北特別支援学校・

北九州中央高等学園整備事業

知的の障害の児童生徒の増加への対応と、老朽化した校舎や狭い運動場などの課題を解消するため、令和7年度中の供用開始に向けて、小倉北特別支援学校及び北九州中央高等学園の建替え・整備を進めています。

令和3年度は、基本設計、用地取得等を行います。



令和3年度予算額 13億7,580万円

「特別支援教室」設置事業

通常の学級に在籍する支援が必要な発達障害等の児童が、必要な時間に障害特性に応じた指導を受けるための「特別支援教室(小学校)」を、市内全区内に設置します(従来は小倉北区、八幡西区の2区のみ)。

指導は、指導拠点校(市内10校)より巡回指導教員が巡回的に巡回して行います。



令和3年度予算額 230万円

子ども読書プラン



1 北九州市子ども読書プランとは…

市内のすべての子どもが、あらゆる場所であらゆる機会に、楽しく自主的に読書に親しむことができるようになるためのプラン（令和3年度から5年間の計画で今回は第4次計画）です。

2 何のために読書をするの？【読書の意義】

- 読書は、「言葉の力をつける」「自分ができないことを疑似体験できる」「知らないことを知る」「他人の考えに触れる」「自分を高める」など、様々な発見や感動をもたらす楽しいもの。
- 読書は、自分で考え、判断し、主体的に生きていくために、生涯にわたって自発的に学ぼうとする習慣を身に付ける上では重要なものです。
- 読書は、読解力、表現力、思考力、想像力、問題解決力など多くの「生きる力」を身に付けることに役に立つ大切なものです。

3 こんな子どもの姿を目指します！

「すべての子どもが、日々の生活中で本を手に取って読み、子ども同士や家族などと楽しく語り合う日常」を目指します。



北九州市の
ホームページでも
情報を公開しています。

4 目標を実現するために

- 読書に親しむ子どもを増やします。
- 読書の大切さを知る子どもを増やします。
- 読書好きな大人、子どもの読書を支える大人を増やします。

5 具体的には、 どんなことに取り組んでいくの？

家庭では

- 母子健康手帳の交付時に絵本を贈り、その絵本の読み聞かせ会等の実施
- 家読（ファミリー読書）の推進
- 秋の「北九州市子ども読書の日」（令和3年度は10月24日）の新設

学校では

- 日ごろから「身边に本 気軽に読書」
- 学校図書館職員が中心となった、学校図書館の環境整備
- 市立図書館の見学を積極的に実施（見学時に図書館利用者カードを申請）

市立図書館では

- 来館のきっかけづくり（魅力的なイベントの実施など）
- 障害のある子どもや外国籍の子どもなど、すべての子どもが利用しやすい環境の整備
- 子ども向け電子図書館の導入（市立小・中・特別支援学校の全児童生徒にID番号を配付）

地域では

- 子育て関連施設、市民センター等での読み聞かせの実施
- 商業施設・レジャー施設などとの連携・協力

読書の普及・啓発として

- SNSを使った情報発信
- 読書好きな子どもが輝く、交流・発信する場の提供

マイスター教員認定証授与式

北九州市教育委員会では、教員の児童生徒への指導力向上を図るために、平成21年度から特に指導力に優れた教員を「マイスター教員」と認定し、教員からの授業づくりに対する相談対応や研修の講師、公開授業の開催など、学校の枠を超えた全市的な教員の指導力向上に取り組んでいます。

今年度は、新たに早朝中学校の原田第一指導教諭がマイスター教員に認定され、認定証授与式を4月22日に行いました。

令和3年度は、16名のマイスター教員が活躍しています。マイスター教員については北九州市のホームページをご覧いただけます。



令和3年度 マイスター教員名簿

● 小学校

教科等	氏名
国語	和泉 美佐子
	児玉 奈穂美
算数	城 智子
	伊藤 有花
社会	濱田 明美
	安元 博美
理科	福田 恒子
生活・総合	木下 京子
学級経営	宍戸 直子
養護	松岡 満子
特別支援教育	西田 久恵

● 中学校

教科等	氏名
国語	小川 哲治
	原田 勇一
算数	森田 久美
社会	竹原 あつみ
理科	諸藤 亜明
保健体育	

● 幼稚園

特別支援教育	西田 久恵
--------	-------

※校種・教科内は、50音順

※令和3年4月1日現在

